令和7年度

まちづくり推進部 山内地域局の方針書

組織名	まちづくり推進部 山内地域局
所属長名	木村　亙

1. 局の使命（ありたい姿）

最も身近な行政窓口として、市民が訪れやすく、気軽になんでも相談できる地域局であること

2. 局の抱える課題（現状）

①少子高齢化が著しく加速する中、多様化するお客様のニーズをいち早く把握し、市民満足度の高いサービスを提供するため、職員の一層の意識改革、資質・能力向上を図る必要がある

②山内ブランドはイベントやマスコミ報道等により認知度、需要とも高まっているが、「山内いものこ」、「いぶりがっこ」等は、生産者の減少や高齢化が進んでおり、山内ブランドを守るため担い手育成と生産意欲向上を図り、生産維持と販売額の増加に繋げていく必要がある。

③人口減少や高齢化が著しい山内地域が抱える様々な課題に対し、地域住民と連携し解決に向けて取り組んでいく必要がある

3. 今年度の『スローガン』

築いた（気づいた）宝を活かし、地域を元気に！

4. 今年度の方針

①市民の皆様が地域局を気軽に訪れやすく、来庁目的が達成できる満足度の高い行政サービスを提供する

②山内ブランドや自然等を含めた様々な地域資源を活かした元気な地域づくりを推進する

③山内地域に住み（続け）たいと思っていただける、安全、安心で魅力あるまちづくりを目指す

5. 今年度の重点取組項目

(1)	実現したい成果	職員の資質・能力とお客様満足度の向上
	取組内容	①職員全員が総合窓口担当の心構えで市民対応をする ②接遇マナーや説明内容等、応対の定期的な振り返り、確認を行う ③積極的な研修受講やOJT等の実施により職員の気付き、一層の意識改革、資質・能力等の向上と不適正事務の防止を図る
(2)	実現したい成果	山内ブランドや自然等の様々な地域資源を活かした地域づくり
	取組内容	①イベントも含め機会あるごとに積極的に山内ブランドのPRをし、一層の知名度アップを図る ②関係部署や農業団体等と協力・連携を図り、生産農家の意欲向上と生産継続に繋がる施策を検討、展開する ③自然の恵も含め、山内の特色ある様々な地域資源を生かし地域活性化の取組・支援を推進する
(3)	実現したい成果	安全安心で住み（続け）たいと思っていただける住みよいまちづくり
	取組内容	①地区交流センターを拠点に地域特有の課題の把握と解決に向けた取組を推進する ②「地域局だより」、防災無線等の活用により、旬な話題や緊急時のリアルタイム情報の発信を的確に行うと共に新たな情報発信手段を模索する ③関係部署等と連携し、公共交通機関の存続や地域の実情を踏まえた交通支援の検討・取組を推進する ④公共施設の適正な維持管理と共に地域住民と合意形成を図りながらFM計画を推進する ⑤地域住民の健康の維持増進と生活課題を抱える方への寄り添った支援を推進する

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組状況

(1) 職員の資質・能力とお客様満足度の向上

・庁舎玄関付近で止まっている来庁者に対し、窓口近くの職員を中心に積極的に声掛けをし目的の課・係等へ的確に案内できた。来庁者へのみならず、職員間でもしっかりと挨拶ができている。
・主担当不在でもお客様に来庁目的を達成していただくため、各課OJTを6回以上実施し対応力の向上を図っている。
・職員研修の受講を促したが、申込者多数で抽選結果、約半数の職員が希望の講座を受講できていない状況にある。

(2) 山内ブランドや自然等の様々な地域資源を活かした地域づくり

・恒例の「いものこまつり」では、いものこの販売・PRのみならず、日本の酒造りがユネスコ無形文化遺産に登録されたことを受け、前年同様、会場の一角に「山内杜氏」に係るブースを設け山内ブランドPRに努めた。
・JR北上線利用促進のため、いものこまつりへの鉄路利用来場者に特典を付与し50人にご利用頂いた。9/25～9/27の横手市ふるさと会連絡協議会ふるさと探訪ツアーでも参加者の多くの方にJR北上線を利用いただいた。
・地域のシンボル的観光資源でもある「あいのの温泉」の解体に向け、利活用できる物品等の仕分け及び庁内関係部署への所管替えを進めるとともに解体工事のための実施設計業務の発注を行った。

(3) 安全安心で住み（続け）たいと思っていただける住みよいまちづくり

・関係団体等からの助言・協力をいただきながら地区交流センターがコーディネーター役となり、7月に地域内で5つ目となる相野々共助組合設立に繋がった。
・民家付近へのクマ出没等、様々な緊急時の場面には防災行政無線等によりタイムリーかつ迅速に注意を呼び掛けを行った。
・クマ出没情報が相次ぐ中、公共施設の安全安心な利用に資するため、施設の使用許可時にチラシを手渡したり、施設ごとに市HPで注意喚起を促した。公共施設の不具合発生時には防災無線も活用し、地域住民に対し迅速に周知を図っている。
・6回開催された健康の駅に、、保健師が対象者に声掛けをし、促すことにより継続参加に繋がっている。
・2箇所で開催された小ネットワーク会議へ参加し、独居高齢者の孤立防止のため情報共有を密にしている。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組方針【ギャップと対策】

(1) 職員の資質・能力とお客様満足度の向上

・定期的な接遇マナーチェックにより、これまでの対応の振り返りを行うとともに、引き続き不適正事務防止のため声掛け、適宜チェックを行っていく。
・上期に研修受講できなかった職員に対し、スキル・能力向上のため、内部研修・外部研修を問わず、事あるごとに受講を促していく。

(2) 山内ブランドや自然等の様々な地域資源を活かした地域づくり

・生産者数の減少、収量減が著しく、山内いものこが幻のブランドにならないよう関係者等から意見聴取を行い、関係部署等と情報共有し、必要な対策等を検討する。
・今後、開催が予定されている山内にんじんフェアやいぶりんピック等のイベントや様々な機会を通じて引き続き山内ブランドのPRを推進していく。
・解体に向け準備を進めている温泉施設について、新たな温泉の係る検討会等の開催に向け、関係部署と連携し準備を進める。

(3) 安全安心で住み（続け）たいと思っていただける住みよいまちづくり

・10月開催予定の小学校学習発表会と地域の文化祭を融合、同日開催し、学校と地域の一層の連携・交流を深める機会とする。
・今後もクマ出没が予測されることから、発行物で注意喚起を図るとともに、緊急時には防災行政無線等で迅速な周知を行う。
・交通弱者対策や違う角度からの地域コミュニティの参考とするため、コミュニティ・カーシェアリング等を実施している先進団体の視察を行い様々な可能性を探る。
・7月に設立された共助組合が機能するよう、他共助組織からの助言・協力も仰ぎながら行政として必要な支援を行う。
・現在、設備の不具合により休館状況にある老人福祉センター（ゆうらく館）の早期の営業再開に向け、関係部署、指定管理者と協議調整を行う。
・少子高齢化、人口減少が著しい中にあり、様々な機会を活用し個人、団体等と交流を促進し、「山内」に興味をもってもらう取組、また、地域活性化に必要な要件等について、地域内外から意見を収集するための準備を進める。
・今後予定している11回の健康の駅へ利用者への引き続きの参加を促すとともに、10地区での小ネットワーク会議への参加による一層の情報共有、連携強化を図っていく。

8. 総括（取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】）